

教育課程の編成及び実施の方針（カリキュラム・ポリシー）について

ディプロマ・ポリシーの達成のため、「一般教育科目」、「キャリア教育科目」及び「専門教育科目」を開設し、さらに、各学科の教育目標に則り、専門科目を体系的に学べる教育課程を提供する。

- ・ 一般教育科目を通して、幅広い教養と豊かな人間性を身につける。
- ・ キャリア教育科目を通して、自己の将来を自ら設計する力を身につける。
- ・ 各学科の専門科目において、各分野の基礎的概念、知識、原理を身につける。
- ・ 実験、演習等の能動的な学修を通して、基礎知識が利用できる応用力を身につける。
- ・ 卒業研修において、設定されたテーマに基づく研究を少人数で行い、その成果をまとめること等により、応用力を高めるとともに、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。

そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。

○ 機械工学科

機械工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅機械技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次には、機械工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び機械工学の専門基礎科目を配置する。
- ・ 2年次には、機械工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、機械工学の応用科目と卒業研修を配置する。

また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。

そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。

○ 電気電子工学科

電気電子工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅電気電子技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次には、電気電子工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び電気電子工学の専門基礎科目を配置する。
- ・ 2年次には、電気電子工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、電気電子工学の応用科目と卒業研修を配置する。

また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。

そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。

○ 情報処理工学科

情報処理工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、中堅情報処理技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次には、情報処理工学の基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び情報処理工学の専門基礎科目を配置する。
- ・ 2年次には、情報処理工学の幅広い分野への適応力と問題解決能力を養うため、情報処理工学の応用科目と卒業研修を配置する。

また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。

そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。

○ ものづくり創造工学科

ものづくり創造工学科では、ディプロマ・ポリシーの達成のため、「ものづくり」に携わる中堅技術者の育成を目的としてカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次には、ものづくりの基礎を学ぶために必要な、工学基礎科目及び機械工学の基礎科目を配置する。
- ・ 2年次には、幅広いものづくり分野への適応力と問題解決能力を養うため、それに必要な応用科目と卒業研修を配置する。

また、学修成果の評価方法としては、各科目のシラバスに定める成績評価の方法・評価基準により評価を行う。

そのほか、学生本人が自身の学修成果を把握するために、入学直後の基礎確認テストや定期的な調査を実施する。